

高等学校第3学年 地理歴史科 地理B 学習指導案

期 日 平成27年10月28日(水) 第2校時

場 所 熊本県立鹿本高等学校 3年1組教室

指導者 教諭 佐藤 圭

1 単元名

「環境問題」(「新詳地理B」 帝国書院)

2 単元について

(1) 単元観

地球規模で進行している自然環境の悪化、あるいは破壊に起因する地球の温暖化やオゾン層の破壊、酸性雨、森林の減少、砂漠化などの問題について、それらの問題がどのような地域に生起している傾向があるのか、各地に生起する現象にどのような要因が共通しているのかなどの観点から概観させる。また、地球規模の環境問題に対してわが国が果たすべき役割についての考察を通して、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

(2) 系統観

小学校	中学校	第3学年(10月)
(単元名)「世界の人々とともに生きる」 (学習指導要領の指導内容) (3) 世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えさせるようにする。	(単元名)「地球環境問題」 (学習指導要領の指導内容) (4) 私たちと国際社会の諸課題 ア 世界平和と人類の福祉の増大 また、地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解させる。	(単元名)「環境問題」 (学習指導要領の指導内容) (2) 現代世界の系統地理的考察 ア 自然環境 世界の地形、気候、植生などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や人間生活とのかかわりなどについて考察させるとともに、現代世界の環境問題を大観させる。

(3) 生徒観

3年1組は男子31名、女子2名、計33名のクラスで、全体的に明るく活気のあるクラスである。学習活動においても積極的な発言が多く見られ、活発な学習環境を形成している。学力や学習に対するモチベーションについては、個人間にやや開きがあるものの、全体的に授業に前向きに取り組むような雰囲気がある。ただ、元気がありすぎて授業内容から逸脱する傾向があるので、しっかりと授業の見通しを示しながら指導する必要がある。本単元については、中学校までに基礎・基本的な知識は習得しているが、地球規模の環境問題に対する国際的な取組に対する理解や、持続可能な未来へ向けて先進国と発展途上国がそれぞれに負う責任についての深い思考にまでは至っていないと考えられる。

(4) 指導観

本単元の指導においては、地球規模で進行する環境問題を概観し、その中で地球温暖化について深く学んでいく。ワークシートや各種の統計・資料を活用し、環境問題の原因や被害だけでなく、その問題が内在的に抱えている課題についても深く考えさせる。他の生徒との意見交換をはじめとする、豊かな関わり合いのある言語活動を通して、多面的・多角的な思考を促し、かつ社会参画力や持続可能な未来への責任ある態度を育む。また、ワークシート等の工夫により、自らの学びを振り返ることができるようにする。さらに、生徒一人一人の学習への参加や理解等を保障するために、クラス全体への指導としてICTを利用し、効果的・効率的な授業が展開できるようにする。

【視点１】学びを引き出す 豊かなかかわり合いのある 言語活動	【視点２】学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り	【視点３】学びを支える 学びのUD化と 効果的なICTの活用
【視点１】 思考力を育む問題解決的な学習を展開する中で討論を主軸とした言語活動を設定し、自己・他者・教師・教材との豊かなかかわり合いによって対話が生まれる授業を通して、持続可能な社会の形成に参画しようとする資質や能力の育成を図る。	【視点２】 共通の学習課題解決までのプロセスを「対立軸の整理」「合意形成を妨げる要因の整理」「合意形成の条件とプロセスの提案」「合意形成」の４段階で設定することで思考過程を可視化するとともに、ワークシート等の工夫により自らの学びを振り返ることができるようにする。	【視点３】 生徒一人一人の学習への「参加」「理解」「習得」「活用」を保障する取組を計画的・継続的に取り組むとともに、ICTを効果的に活用しながら様々な教材を提示し、考え方を共有する。

◇インクルーシブ教育の視点から

【基礎的環境整備】

- ・間違いや失敗に対しても、受容的で共感的な学級の雰囲気をつくる。
- ・学ぶべきことを明確にするために、学習のめあてを明確に示す。
- ・諸活動の時間を明示し、残り時間を確認できるようにしておく。
- ・視覚的に理解を深めることができるようにICTを活用する。

【合理的配慮】

(省略)

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	地球規模で進行する環境問題について地理的・空間的に大観した上で、その対策として日本が果たすべき役割について当事者意識を持って考え、自分の考えを表現できる。
関心・意欲・態度	① 持続可能な社会へ向けて、地球規模で進行する環境問題に対して日本が果たすべき役割について当事者意識をもって考えている。 ② グループ協議の過程で、他者の考えと自分の考えとの違いを乗り越えて、より高次の合意を形成しようとしている。
思考・判断・表現	① 地球規模で進行する環境問題がどのような地域に生起している傾向があるのか、各地に生起する現象にどのような要因が共通しているのかなどについて資料などを活用して考え、表現している。 ② 地球規模で進行する環境問題に対して日本が果たすべき役割について、他者の考えと自分の考えの対立軸を明確にし、それを乗り越える案を提示している。
資料活用の技能	① 地球規模で進行する環境問題について、統計・資料を読み取り、客観的に事実を分析している。
知識・理解	① 日本ではどのように環境対策を進め、公害を克服して環境技術を高めてきたかを正確に理解している。 ② 地球規模で進行する環境問題について、地理的に大観し、原因と被害の現状や対策としての国際的な取組等を正確に理解している。

4 指導・評価の計画（4時間取扱い 本時3／4）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 【3つの視点から】	評価の観点（評価方法） B基準
1	1	○日本の環境問題について教科書に基づいてポイントを整理する。	【視点3】 ・公害など負の側面について確実に押さえたうえで、日本企業の環境技術の高さなど明るい側面にも注目させる。	知識・理解①（ワークシート） 日本の環境対策や公害を減らしてきた経緯について正確に記入している。
		単元の基軸となる問い 「世界の環境問題に対して、日本が果たすべき役割について考えよう」		
		○世界の環境問題について教科書・資料集に基づいてポイントを整理する。	【視点2】調べる環境問題をグループで分担し、ワークシートにまとめさせる	知識・理解②（ワークシート） 世界の環境問題について、正確に理解し、ワークシートに記入している。
2	2	○世界の環境問題に共通する課題について考える。 ○世界の環境問題について先進国と途上国の立場の違いについて考える。	【視点1】前時に調べたことをもとに、生徒どうしで考えさせる。 ・先進国の責任と途上国の責任の違いに気づかせる。	思考・判断・表現①（ワークシート） 地球規模の環境問題の原因の多くが先進国の工業化の進展に起因することに気づいている。 途上国の開発と地球環境の保護に対立点があることに気付いている。
		○地球温暖化について、教科書・資料集に基づいてポイントを整理する。 ○「京都議定書は成功したといえるか」について資料に基づいて考える。 ○京都議定書について、ポイントを整理する。	・地球温暖化をテーマに、日本が果たすべき役割を考えることを提示する。 【視点1】資料に基づいて、生徒どうしで考えさせる。 【視点2】資料から読み取ったことを、ワークシートに記入させる。 ・2つ程度の班を指名して発表させる。 【視点3】発表の中で出た意見は肯定的に受けとめ、生徒の自己肯定感をはぐくむ。 ・生徒から出た意見を価値づけしてまとめる。	資料活用の技能①（ワークシート） 関心・意欲・態度①（観察） グループで協力して、資料の意味を読み取ろうとしている。 資料活用の技能①（ワークシート） ワークシートに資料から読み取った内容を記入している。

3 (本時)	○地球温暖化の対策として日本が果たすべき役割について、資料を活用しながら自分の考えをまとめる。 ○グループ内で、自分の考えを発表する。 ○グループ内で出た答えについて、作業シートを用いて整理する。 ○グループで出た考えを発表する	【視点3】机間指導をしながら、資料の読み取りなどで困っている生徒を支援する。 【視点1】話し合いがスムーズに行われるよう、机間指導をしながら支援する。 【視点2】作業シートを用いてそれぞれの考えの対立軸を明確にする。 【視点3】タブレットPCを用いて各グループの作業シートをスクリーンに写し、発表の内容理解を助ける。	思考・判断・表現①（観察） 資料を活用しながら、自分なりの考えをまとめている。 思考・判断・表現①（観察） 自分の考えが、他の生徒によく伝わるように工夫して発表している。 資料活用の技能①（作業シート） 作業シートの活用の仕方を理解し、課題を明らかにしている。 思考・判断・表現②（観察） 自分たちの考えた内容が、他の生徒によく伝わるように工夫して発表している。
	○前時までの論点を確認する。 ○前時の協議で明確になった対立軸について、合意形成の条件をグループで考える。 ○グループの合意内容を、ワークシートにまとめ発表の準備をする。 ○グループでまとめた考えを発表する。 ○他のグループの発表の中で参考になる意見を、個別のワークシートに記入する。 ○課題に対する最終的な自分の考えを、ワークシートに記入する。 ○環境問題に対する国際的な取組について概観し単元のまとめとする。 ○単元の振り返り	【視点3】タブレットPCを用いて前時の各グループの発表を振り返る。 【視点1】最終的な提言をまとめるために、各自の考えの対立軸について、合意点を見出すように促す。 【視点2】まとめ方について、机間指導をしながら支援する。 【視点3】タブレットPCを用いて各グループの作業シートをスクリーンに映し、発表の内容理解を助ける。 【視点1】多くの意見を取り入れることで、物事を多面的・多角的に捉えることを促す。 【視点2】自分の考えを言葉で表現し、より明確にする。 【視点3】ワークシートを用いて、生徒の理解を助ける。 【視点2】学びを振り返る。	思考・判断・表現②、関心・意欲・態度②（観察） 根拠を示しながら、グループでのまとめへ向けて、合意点を見出そうとしている。 思考・判断・表現②（ワークシート） 自分たちの考えた内容が、他の生徒によく伝わるように工夫して発表の準備をしている。 関心・意欲・態度①（観察） 持続可能な社会へ向けて、当事者意識をもって自分たちで考えたことを他の生徒に伝えようとしている。 関心・意欲・態度①（ワークシート） 他のグループの意見をワークシートに記入している。 思考・判断・表現②（ワークシート） 協議を通じて環境問題に対する自分の考えが深まっている。 知識・理解②（ワークシート） 実際の取組を理解する。 思考・判断・表現②（ワークシート）

5 本時の学習

(1) 目標

地球規模の環境問題についての知識・理解をもとに、地球温暖化の対策として日本が果たすべき役割について当事者意識をもって考え、意見を表明する。

自分の考えと他者の考えの違いがどこにあるかを客観的に認識する。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 10分	1 本時の学習課題を確認する。 (1) 資料から、日本のCO ₂ 削減目標が大幅に下方修正されたことに気づき、そのことについて評価する。 (2) 本時の学習課題を確認する	【視点3】タブレットPCで「麻生内閣」、「鳩山内閣」、「安倍内閣」のそれぞれの日本の温室効果ガス削減目標を提示する。 ○温室効果ガスの削減目標が下方修正された背景について説明する。 【視点3】学習課題設定の理由（COP21において「パリ合意」が目指されていること）と本時の流れを説明し、生徒一人一人が主体的に、見通しをもって授業に参加できるようにする。	タブレットPC ワークシート（個別）
展開 35分	2 学習課題について考える。 (1) 資料を活用しながら、自分の考えを、付箋紙に書く（削減目標はグリーン、その他の役割はピンクの付箋紙に書く）。 (2) グループ内で考えを発表し合う。 (3) グループ内で出た考えを、作業シートを用いて整理する。 (4) 各グループで出た考えを発表し合う。 【言語活動】（設定の意図） 地球温暖化の対策として日本が果たすべき役割について、様々な角度から考え、意見を出し合ってよりよい案を出そうとする言語活動を通じて、社会的事象を多面的・多角的に考察する力や、社会に参画する力、および持続可能な未来へ責任を持つ態度を育む。	【視点1】根拠となる資料を提示するように指導する。 ○必要に応じて視点を示し、生徒の思考を支援する。 ○活動の時間を明示し、残り時間を確認できるようにしておく。 【視点3】机間指導をしながら、資料の読み取りなどで困っている生徒がいれば、支援する。 ○全員が発言できるように、時間配分に配慮する。 ○後の話し合い活動に時間を割くため、質疑・応答は行わない。 【視点1・3】話し合いの進め方などで困っているグループがあれば、支援する。 【視点1・2】「積極的な取組」と「現実的な取組」、「世界へ向けた取組」と「国内での取組」という2つの軸で、出された考えを整理させる。 ○出された考えを整理した上で、対立する考えを見出し、なぜそのような対立があるのかをグループで考えさせる。 【視点2・3】タブレットPCで、ワークシートをスクリーンに映し、生徒に発表させる。 ○他のグループの発表の中で参考になる意見を、個別のワークシートに記入する。 【視点2】グループでの協議や他のグループの発表を聞いて、自分の考えがどう変わったかを、ワークシートに記入する。	タブレットPC 資料付箋紙 作業シート（グループ） 作業シート（グループ） タブレットPC ワークシート（個別） ワークシート（個別）
整理 5分	3 本時の振り返り		

		評価：思考・判断・表現（ワークシート） B基準地球温暖化対策のために日本が果たすべき役割について、自分なりの考えを表明している。自分の考えと、他者の考えの違いを認識している。 A基準地球温暖化対策のために日本が果たすべき役割について、資料に基づいて独自の考えを表明している。 〈B基準に達していない生徒への手立て〉 ○ワークシートに思考を支援するためのコメントを記入して返却する。個別に声をかけ、支援する。	
	4 次回の予告	○「作業シート」を回収する。 （「ワークシート」は次回も使用するので、持ってくるように指示する） ○次回は、本日明確になった対立点を越えて、地球温暖化の対策として日本が果たすべき役割について、グループで意見をまとめることを予告する。	